

2025教員父母連絡会総会レポート

スポーツ・コンプレックスなど スポーツ環境整備が進む 京田辺校地

5月31日(土)、2025年度教員父母連絡会総会を開催しました。今回もZOOMによるオンライン形式での実施となり、約100名が参加しました。

総会は15時に開始され、平石祥吉会長の挨拶に続き、今年度から学部部長に就任した北條達也教授が自己紹介と学部の近況報告を行いました。北條学部長は医師資格を持ち、スポーツ医学やリハビリテーション医学、生活習慣病概論などの医学系科目を担当しています。近況報告では、本年創立150周年を迎える同志社大学の未来像をまとめた「VISION2025」に触れ、新アリーナ建設やコート増設といった京田辺校地におけるスポーツ・コンプレックス整備事業や、京田辺校地そのもののリニューアルなど、学部の今後の発展に向けた取り組みについて説明を行いました。



平石祥吉前会長



北條達也学部長

その後は議長を選出し、24年度の事業報告および奨学金受給者の報告が行われました。24年度は4月に新入生父母説明会、5月にオンライン総会、3月に奨学金授与式を実施したこと、またゼミ単位で開催された卒業式後の謝恩会に補助を行ったことなどが報告されました。教員父母連絡会からは12名の学生に1人あたり5万円の奨学金を給付しました。

次に会計担当の岩田昌太郎教授より24年度決算および監査報告が行われ、原案通り承認されました。その後、25年度事業計画案、予算案、役員案が審議され、いずれも承認されました。25年度の会長には二上英樹氏、新副会長

には橋本佳美氏が選出されたほか、新たな父母役員として安田めぐみ氏と太田秀樹氏が加わりました。最後に北條学部部長より、本年度の教員役員は自身(副会長)、岩田教授(会計)、築瀬康助教(委員)の3名が務めることが伝えられ、教員・父母が一体となって学生を支えていく決意が改めて示されました。総会終了後は本学部に在籍する教員が自己紹介を行いました。続いて教員によるスポーツ健康科学部の学びと学生支援についての紹介、株式会社マイナビ様による保護者向けの就活講座が行われました。



二上英樹会長

●スポーツ健康科学部で学ぶこと 文理融合の学びと カリキュラムの特色

教務主任 高倉久志 准教授

まず本学部の学問領域は「文理融合型の応用総合科学」と位置づけられており、カリキュラムの核として「健康科学」「トレーニング科学」「スポーツ・マネジメント」という3つの学修領域が設定されています。学生はこれらを

履修モデルとし、自身の興味や将来の目標に応じて多角的に専門性を深めていきます。

また実践的な能力を養うための実験・実習科目が充実している点も、特色の一つです。特に2年次の必修科目「基礎実習」は、約20名のグループで11種類もの多様な実習クラスをローテーションで受講する形式で、毎週レポート提出が課されるタフな科目です。学生はこの経験を通じて、科学的な調査・分析能力や、大学での学びに不可欠なレポート作成能力、プレゼン力などを発展、充実させていきます。

少人数教育も本学部の強みです。1年次には大学での学び方の基礎を固める「ファーストイヤーセミナー」が、3・4年次には1学年10名程度の少人数で行う「演習(ゼミ)」が開講されます。学生一人ひとりが教員からきめ細かな指導を受けられ、教員とのコミュニケーションも取りやすい環境です。

さらに総合大学のメリットを活かし、生命医科学部や心理学部など他学部の専門科目の一部を履修できることも特色です。なお24年度からは新たな授業形態が導入されています。この新形態は、教室での面接(対面)授業にオンラインで授業を組み合わせるもので、これによって長期休暇を確保しやすくし、フィールドワーク、インターシップ、ボランティア活動といった学生の主体的な学びの機会や、留学機会の増加などを期待するものです。

取得可能な資格としては、中高の保健体育教員免許(一種)をはじめ、公認スポーツ指導者や健康運動指導士など、多くの専門資格があります。なおキャンパスハラスメントの相談制度、You Tubeの学部公式チャンネルもあり、多方面から学生をサポートしています。



高倉久志教務主任

●スポーツ健康科学部の 学生支援について 好調な就職状況と安全な学生生活を 送るための注意事項

学生主任 岩田昌太郎 教授

スポーツ健康科学部のある京田辺キャンパスには、最新のスポーツ科学を学べる各実験室を備えた贅上館など、充実した施設があります。本学部ではそこで約1000人の学生が、21名の専門教員の指導のもとで学んでいます。

奨学金制度では、経済支援奨学金に加え、学業やスポーツの奨励を目的とした奨励奨学金も多数用意されており、毎年秋に一括公募されます。進路については、この5年間、スポーツ健康科学部の就職率は全学の中でも非常に高

い数値で推移しており、卒業生はメーカー・流通・金融・マスコミなど多様な業種へ進出しています。学生の就職活動については、大学のキャリアセンターや本学部独自の就職対策セミナーなどで、手厚く支援しています。

最後に、学生が飲酒事故や違法薬物、闇バイトなどのトラブルを避けて安全な生活を送るため、入学時に「NOMOREトラブル」という注意喚起の冊子を配布しています。相談体制も整備していますので、もし困り事、悩み事があれば、遠慮なく大学、学部にご相談ください。



岩田昌太郎学生主任

●保護者向け就活セミナー 最新の就職活動概況 採用動向から保護者の役割まで 株式会社マイナビ キャリアサポーター 簡井あつさ様

26年3月卒業予定の学生を対象とした大卒求人倍率は1・66倍と、売り手市場が続いています。しかし従業員数300人未満の中小企業の求人倍率は8・98倍であるのに対し、500

0人以上の大手企業では0・34倍と、企業規模などによって大きな差があります。人気企業は依然として狭き門です。

就職活動のスタイルも大きく変化し、情報収集からエントリー、面接までオンラインで完結するケースが増加しています。選考フローも多様化・複雑化しており、エントリーシートや適性検査に加え、自己PR動画の提出や先輩社員との面談、グループ・ディスカッションなど、多様な手法があります。

26年卒の学生は平均21・6社にエントリーし、10・1社の面接を経験しています。就職活動の本格化は大学3年生の3月からで、この時期に内々定を得る学生も増えており、最近では内々定を出した企業が保護者の了承を確認する事例も出てきています。

就職活動が本格化する前に仕事を知る機会として、さまざまなプログラムによるインターンシップがあります。企業側もインターンシップ参加者に対し、その後の説明会・セミナーの案内を継続的に行うなど、早期から学生に情報提供をしている状況です。

マイナビの企業向けアンケート結果によると、企業が採用において最も重視しているのは、学力やスキル以上に素直さや誠実さといった人柄であり、次いでコミュニケーション能力が挙げられます。これは、業務実績のない学生の潜在能力などを評価するためのものです。つまり学生時代に何か一つで

も夢中になって打ち込んだ経験が、人間力を磨き、結果的に企業からの評価につながっていると言えます。

保護者の皆様からのサポートについては、まずご自身が積み重ねてこられた仕事上での経験などを話すことが、ご子女にとって良いアドバイスになります。また最も身近な存在として、ご子女の強みや弱みを客観的、具体的に伝えてあげることも重要です。一方で、SNS上の不確実な情報に惑わされないよう、親子で正確な情報源にあたることも必要です。説明会への同行など、ご子女本人がすべきことへの過剰な手伝いはせず、一歩引いて見守る姿勢が基本だと思っています。

最後に、就職活動が本格化する前に親子でコミュニケーションをとる時間を確保し、大学のキャリアセンターなど学内の支援体制を積極的に活用するようご子女に促していただければと思います。

* * *

今回も多くのご父母の皆様にご出席いただき、皆様のご協力によって総会が無事に終了しました。誠にありがとうございました。



大学院生
座談会



充実した研究生活が
新たな目標を生む

濱村麟太郎さん（博士前期課程2年）

松村 梨那さん（博士前期課程2年）

北村 将也さん（博士後期課程3年）

【聞き手】岩田昌太郎教授

出席者

大学院では興味あるテーマを、深く突き詰めて学ぶことができます。実際に何を学び、その学びを通じてどのような力が培われてきたのでしょうか。研究生活や学習支援環境などについて3人の大学院生に聞きました。

コロナ禍で翻弄された
学生生活も

食欲に学びを求める
きっかけの一つに

——現在は何を研究されていますか。
濱村 どうしたらスポーツがうまくなるのかを知りたくて、スポーツ運動学の観点から研究しています。例えばサッカーやバスケットボールで、ボールを持っていないときの動きをどうするか。また相手の空間に走り込んでシ

ユートをしたりパスをもらったりするプレーは個人のセンスとして考えられてきて、現場で教えるのは難しいとされています。そのような能力を自分で高めるにはどうしたらいいのか、その能力はどうか、評価するのかという研究をする中で、他者に教えることについても興味が高まっています。



松村梨那さん

北村 私のテーマは運動神経生理学です。人間の運動活動の神経基盤を明らかにすることを目的としています。学



北村将也さん

ら、複合的な研究をしてみたいです。複数の視点を持ちながら一つの研究に取り組むことができたなら、より深く掘り下げることも可能だと思います。

奨学金制度など
修了後の夢も広がる

——後輩たちのために、奨学金制度など学びの支援環境について教えてください。

濱村 海外留学希望者対象の奨学金制度が複数あり、給付でいただけることになりました。留学は何かと経費がかかるので、とてもありがたいです。

松村 私は同志社大学大学院奨学金を利用しています。授業料の半額を給付していただけるもので、昨年申請しました。国内外の学会に参加する際も研究室に割り当てられている予算から交通費などを補助していただきました。経済的な問題で学会参加を諦めるのは

部生時代から博士課程にかけて6年間、体育会陸上競技部に所属していました。一時期やめていましたが、今年また部員として復帰して、競技と研究生活を両立させています。

——大学院進学の動機を教えてください。

濱村 これまで野球やアメフトをやってきた中で、選手によるパフォーマンスの差に疑問を抱いていました。同じ練習をしてもうまくなる選手とそうでない選手がいて、後者だった自分は、



濱村麟太郎さん

その違いは何なのかを考えずにいられたかったのです。ただ、大学入学後はコロナ禍の影響や、アメリカンフットボール部の活動が忙しかったこともあり、もつと時間をかけてじっくり研究したくなりました。大学院進学を決めたのは3年生の冬から4年生の春にかけてです。

松村 私が進学を決めたのは4年生の夏です。入学当初は、大学院のことはまったく意識していませんでした。それが変わったのは石井ゼミで学会に参加したことがきっかけです。大学院生

もったいないので、挑戦を後押ししてくれていると感じます。

北村 博士後期課程では若手研究者育成を目的とする奨学金があり、学費相当分の支給を受けられるほか、ティーチング・アシスタントとしての収入もあります。また、生活費相当と研究費の一部が支給されるJSTの次世代研究者挑戦的研究プログラムにも採択され、生活費を心配することなく研究に打ち込めています。

——大学院での学びが就職先など進路選択に及ぼす影響はいかがですか。



岩田昌太郎教授

濱村 子どもたちへのスポーツ指導を研究するために、幼稚園などの協力を得て実験を続けています。彼らとの関わりを通じて、教えることへの興味がどんどん深まり、教師になりたいという夢が明確になりました。こうした経験があれば一般企業への就職を考えていたかもしれません。振り返れば知見を深めることができた1年半でした。現場では理論と実践のギャップがあり、知識を即活かすことは容易ではないと感じています。そこは実践経験の積み

が発表する姿を見て、進路のイメージがふくらんできたのです。兄が大学院に進学したことからも影響を受けましたし、濱村さんと同じくコロナ禍であり勉強できなかったと感じていたのも、もう少し学びたい気持ちが強くなりました。

北村 親戚に大学教員がいるため、もともと研究に関心がありました。自分の興味を突き詰めて形にするのは面白そうだから、大学院で研究できたらいいなという漠然とした思いです。気持ちが固まってきたのは3年生になってから。実際に博士前期課程で勉強してみると興味は深まるばかりで、ますます研究を続けたいとなり、博士後期課程へ進みました。

自分の興味を掘り下げる
研究生活の楽しさ
プレゼン能力も向上

——学部とは異なる大学院ならではの学びや、やってみたい事は何ですか。
濱村 学部ではゼミのテーマに則して卒業研究を行いますし、単位取得に追われたり、就職活動が忙しかったりして、決められた事を懸命にこなすだけで精一杯な感じがします。しかし大学院生になると、自分の興味をどうやって解明していくのかを、自分でプランを立てて実行していかなければいけません。自分のしたい研究ができている実感があります。やってみたい事としては、9月からドイツに留学します。

重ねによって、大学で培った専門的な理論を実際の教育現場の状況に合わせて応用し、理論を現場の教師として落とし込める力を育みたいのです。人に何かを分かりやすく伝えるこのような能力は就職活動でも活かされていると、友人も話しています。

松村 私は一般企業に就職するつもりです。企業でもプレゼンをする機会はあるので、大学院生の間にプレゼン能力をもっと向上させたいです。物事を見ると、一つの視点にこだわらずに、ちよつと視点を変えてみるという力も、社会人になってから何か問題が起こったときに活かせると思います。

北村 私はこのままアカデミアに進んで研究を続けることを希望しているのですが、純粹に研究力が身に付いたことがうれしいです。かつては博士後期課程に進学したとしてその先があるのかという不安もあり、就職した方がいいのかと悩んだ時期もありました。でも、やりたいことをやるのが一番という初心を貫いてよかったです。

濱村 やりたい研究を実現できる環境は整っています。後輩の皆さんも就職するのか、もう少し勉強するのか迷いがあれば、自分の気持ち次第だと伝えたいです。

北村 研究室の後輩からは、経済的な問題が大学院進学へのネックになっているとよく聞きます。そこで断念せず、奨学金制度を活用しながら進路選択の幅を広げてほしいと思います。

新しく着任された先生から自己紹介



大澤 晴太先生

はじめまして。2025年度より特別任用助教として着任いたしました、大澤晴太（おおさわせい）と申します。同志社大学スポーツ健康科学部・研究科にてスポーツ健康科学を専攻し、2024年度に博士（スポーツ健康科学）の学位を取得しました。博士号取得に至るまでの研鑽の過程においては、井澤鉄也先生より賜った多大なるご指導とご助言に、心より感謝申し上げます。

大学院では、運動が脂肪組織に存在する間葉系幹細胞（脂肪由来幹細胞）の脂肪分化能に及ぼす影響とその分子機構の解明に取り組んでまいりました。これまでの知見を礎として、現在は「運動によって誘導される脂肪由来幹細胞の機能変容とその分子基盤の解明」を主要な研究課題として位置づけ、スポーツ科学と生命科学を架橋する学際的

視座のもとで、その解明に向けた探究を進めております。

本課題の遂行にあたっては、運動に伴い変化する脂肪組織内の微小環境や、それに起因する機械的刺激が、脂肪由来幹細胞の多分化能や自己複製能に与える影響に着目しています。これらの現象を多面的に捉えるため、オミクス解析に加え、シグナル経路および標的分子に対する薬理的・遺伝学的手法を用いた解析を組み合わせ、分子レベルでの包括的な理解を目指しています。

とりわけ現在は、運動によって修飾された細胞外マトリックスが幹細胞の運命決定に可塑的かつ長期的な変容をもたらすという仮説に基づき、「エクササイズニッチ」とも称し得る新たな微小環境の機能的意義の解明に注力しております。この枠組みは、老化や高脂肪食摂取によって損なわれる幹細胞機能に対し、運動がいかに保護的に作用するか――すなわち、幹細胞機能に対する運動の生理学的意義を明らかにするうえでも、極めて重要な端緒となると考えております。

私にとって本研究は、個人的関心と社会的意義が交差する領域にあり、その両面に誠実に応えるべく、日々強い探究心と責任感をもって取り組んでお

ります。今後は、これまでの成果を基盤にさらなる深化を志すとともに、学内外の先生方との積極的な連携を図りながら、教育・研究の両面において尽力してまいります。また、研究や議論を通じて互いに刺激し合い、共に新たな知見を創出していける仲間との出会いを、心より楽しみにしております。何卒よろしくお願い申し上げます。

*



池上 健太郎先生

はじめまして。2025年度より特別任用助手として着任いたしました池上健太郎（いけうえけんたろう）です。私は他大学の理学療法学科を卒業後、急性期病院にて理学療法士として勤務し、2019年に同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科へ進学、修士号および博士号を取得しました。

実務経験を通じて、脳卒中や心筋梗塞などの脳心血管疾患を未然に防ぐ身体づくりや、予防医学における身体活動・運動の可能性を追求したいと考え、研究の道に進みました。疾患予防には、リスク因子を持たないことと早期に発

見することが重要です。「健康日本21（第二次）」の最終報告書では、「メタボリックシンドロームの該当者および予備群の減少」が「D（悪化している）」と評価されました。メタボリックシンドローム自体は疾患ではありませんが、動脈硬化を介して脳心血管疾患や認知症の発症リスクを高めることが知られており、これは将来的な疾患リスクの悪化を意味します。2024年に掲げられた「健康日本21（第三次）」では、「誰一人取り残さない健康づくり」の推進と、個人の特性や性差に応じた支援による「より実効性を持つ取組の推進」が重点項目として明記されています。これらの取り組みを効果的に進めるためには、疾患発症リスクを有する対象者の早期発見が不可欠です。

私はこれまで、肥満者における筋肉の質や新たな肥満指標（a body shape index）による脳心血管疾患リスクの抽出、一般集団における位相角（phase angle：細胞の健康度や筋肉の質を反映する指標）と認知機能との関連など、疾患リスクの早期発見に関する研究を行ってきました。現在はこれらに加え、大規模健診データを用いて、有酸素運動の種目が高血圧や糖尿病などの代謝異常に与える影響についても検討しています。近年、医療界でも浸透してきている「運動は薬」という言葉を科学的に裏付け、健康寿命の延伸に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

最新の研究機器紹介

パワー評価訓練システム (1080Sprint&Quantum)

新井 彰先生

今回新しく導入したパワー評価訓練システムは、アスリートのパフォーマンス評価とトレーニングの両方を同じ

機器で実施することができ、斬新なシステムです。スウェーデンの1080motion（テン・エイティ・モーション）社が開発した本システムは、実際のアスリートのダイナミックな運動中のパワーを評価することができます。私たちの発揮する「パワー」とは、「力×速度」で示されますが、実際の競技やトレーニング中の動作とは乖離した動きを用いて脚伸展パワーを測るなどの手法がスタンダードでした。さらに、ウェイトト



1080Quantum

レーニングで挙上した重量と繰り返し回数をトレーニング記録として扱うことはトレーニングを実践する場では一般的ですが、100kgのウェイトをスクワットで挙上した際に、どのぐらいの力をどのような速度で発揮したかを可視化することは難しいものでした。この1080motionシステムは、ワイヤーを牽引する力と速度を測定し、トレーニング中に発揮されたパワーの「中身」を即時表示で確認、評価することができます。見た目には同じように挙上しているスクワットでも、実際には速度が低下するなどの変化が生じていることがあるわけです。据置型（1080Quantum）のパワーラックタイプでは、ウェイトトレーニングに加え、アームの高さや方向が多段階で変更できるため、ゴルフのスイングやジャンプのパワーなど、あらゆる実践的な動作のパワーを測定できる可能性があります。

同じシステムの中で、可搬型（1080Sprint）は、腰に付けたベルトにワイヤーを固定し、牽引走（ソリやタイヤを引くようなトレーニング）やアシスト走（オーバースピードトレーニング）中のパワーを測定することができます。電子制御で負荷抵抗を設定でき、1歩1歩の発揮パワーを観察、評価することができます。1080Sprintは、大谷翔平選手がトレーニングに取り入れていることが報道され注目されました。演習や卒業研究等を中心に、継続的なトレーニング中のパワー発揮特性の変化



1080Sprint

を追うなど、トレーニング現場のリアルティを追求した研究を実践できると期待しています。

◎参考URL

<https://www.1080motion.com/>

■ キャンパスカレンダー

秋 学 期	
2025年 11月 1日(土)	】 同志社クローバー祭
2日(日)	
2日(日)	
3日(月)	
24日(月)	スポーツフェスティバル
26日(水)	文化の日(授業日)
27日(木)	振替休日(授業日)
28日(金)	】 創立記念行事週間 (休講)
29日(土)	
12月 24日(水)	創立記念日(休日)
25日(木)	冬期休暇開始
26日(火)	キリスト降誕日(休日)
27日(水)	冬期休暇終了
7日(水)	面接授業再開
12日(月)	成人の日(休日)
19日(月)	面接授業最終日
20日(火)	期末試験開始
23日(金)	創立者永眠の日
2月 9日(月)	期末試験終了
12日(木)～18日(水)	秋学期集中講義期間
3月上旬	卒業可否通知
13日(金)	在学生成績通知
20日(金)	】 秋学期卒業式・ 学位授与式
21日(土)	
22日(日)	
31日(火)	
	秋学期終り

ご意見ご感想は電話またはe-mailでお寄せください

スポーツ健康科学部教員父母連絡会事務局
(スポーツ健康科学部事務室内)
Tel.0774-65-6030

e-mailはこちらから▶



スポーツ健康科学部ホームページ
▶教員父母連絡会のページから随時最新情報を発信しております

■ 2025年度 教員父母連絡会役員構成について

2025年度はこのメンバーで運営いたします。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

	役職	氏名		役職	氏名
父 母 役 員	会長(3年)	二上 英樹	父 母 役 員	委員／監事(1年)	安田 めぐみ
	副会長(2年)	橋本 佳美		委員(1年)	太田 秀樹
	委員(4年)	平石 祥吉	教 員 役 員	副会長	北條 達也
	委員(4年)	沖 尚也		会計	岩田 昌太郎
	委員(3年)	田村 知英		委員	築瀬 康
	委員(2年)	太田 純子			

■ 教員父母連絡会寄贈図書

磐上館のラーニング・テリア(自習室)に常置します。

書籍名
図解 スポーツ健康科学入門 第2版
アスリートのための解剖学：トレーニングの効果を最大化する身体の科学
アスリートのための解剖学〈アドバンス編〉
スポーツ栄養学：科学の基礎から「なぜ?」にこたえる
スポーツ栄養学 第2版：科学の基礎から「なぜ?」にこたえる
標準生理学 第10版
Exercise Under Hypoxia as an Effective Intervention for Athletic Performance and Health Promotion: Hypoxic training for performance and health
筋生理学で読みとくトレーニングの科学
ポリフェノールの科学
Science and Application of High-Intensity Interval Training: Solutions to the Programming Puzzle
体育科教育2018年1月～2025年7月分

スポーツ健康科学部生の活躍

〔2025年度〕(8月までの戦績を抜粋)

【ボウリング部】

◎令和6年度関西学生(大学)個人ボウリング選手権

優勝…熊凌汰(2023年度生)

◎第56回全日本大学個人ボウリング選手権大会

女子個人優勝…渡辺希哩(2024年度生)

男子個人優勝…熊凌汰

女子個人3位…石本絵梨奈(2022年度生)



◎第64回関西学生春季リーグ戦

男子優勝…岡田将明(2022年度生)、熊凌汰、渡邊楓(2025年度生)

女子優勝…石本絵梨奈、渡辺希哩

【トライアスロン部】

◎2025西日本学生トライアスロン選手権尾道因島大会

女子団体準優勝…橋本華(2022年度生)、



尾崎ほか(2022年度生)、林田青空(2024年度生)

男子団体準優勝…中村就太(2023年度生)

【ソフトテニス部】

◎第45回全日本大学ソフトテニス王座決定戦3位…宮田成将(2025年度生)、長根慎人(2025年度生)、塚本星弥(2024年度生)、長根新太(2023年度生)

◎令和7年西日本大学対抗ソフトテニス選手権大会

男子団体西日本2位…宮田成将、塚本星弥、長根新太

女子団体西日本2位…白鳥和(2022年度生)、馬淵詩(2023年度生)

◎令和7年西日本学生ソフトテニス選手権大会

西日本3位…宮田成将

【フィギュアスケート部】

◎第97回日本学生氷上競技選手権大会(7・8級)

全国5位入賞(団体)男子…小林隼(2022年度生)

全国5位入賞(団体)女子…清水咲衣(2024年度生)

◎第9回アジア冬季競技大会(2025/ハルビン)

6位入賞…清水咲衣

【ボート部】

◎第10回西日本選手権競漕大会

男子ダブルスカル3位…阿部昌平(2025年度生)

女子舵手付きフォア2位…堀内優(2024年度生)

女子ダブルスカル3位…東野花(2023年度生)

◎第103回全日本ローイング選手権大会

女子エイト準優勝…東野花、児嶋奎(2022年度生)

女子ダブルスカル6位…東野花

◎2025年度関西選手権競漕大会

男子舵手付きフォア優勝…阿部昌平、女子クオドルブル優勝、児嶋奎、田中真緒(2024年度生、東野花)

【男子ソフトボール部】

◎第57回春季関西学生ソフトボールリーグ戦優勝…橋田好健郎(2022年度生)、上野結来(2023年度生)、藤井大智(2023年度生)、辻凌和(2023年度生)、松崎連音(2025年度生)

◎第57回西日本大学男子ソフトボール選手権大会

優勝…橋田好健郎、上野結来、藤井大智、辻凌和、松崎連音、阿部航汰(2025年度生)

【空手道部】

◎第69回全日本学生空手道部選手権大会

形5位入賞…北口歌桜(2022年度生)、山本真由(2024年度生)

形準優勝…中島汰尊(2025年度生)

女子組手ベスト8…釜つばさ(2022年度生)

【水泳部】

◎第100回日本選手権水泳競技大会

400m自由形優勝…梶本一花(2022年度生)

800m自由形優勝…梶本一花

1500m自由形優勝…梶本一花

200mバタフライ優勝…藤本穂(2023年度生)

◎世界水泳シンガポール2025



スポーツアトム編集局

スポーツアトム編集局(体育会情宣機関)では各部活を局員が担当し、日々体育会の活動取材し、紙面やHPにて発信しています。「カレッジスポーツを広めたい」という想いから、全ての作業に全力を注ぎ、これからも活動していきます。詳しくはHPをご覧ください。

<http://doshisha-atom.net/>



【カヌー部】

◎U23世界選手権大会

WK4 WK2出場…小林陽菜(2023年度生)

400m自由形予選12位…梶本一花
1500m自由形予選10位…梶本一花
4×200mリレー決勝8位…梶本一花
800m自由形決勝8位…梶本一花
OWS 10km決勝8位…梶本一花
OWS 5km決勝3位…梶本一花
OWS 3kmノックアウトスプリント優勝…梶本一花
200mバタフライ準決勝12位…藤本穂
◎第99回関西学生選手権水泳競技大会
100mバタフライ優勝…高嶋悠雅(2024年度生)

【柔道部】

◎関西学生柔道優勝大会

3位…村上力仁(2024年度生)



DO FIELD 23



The Doshisha

DO-FIELD【ド・フィールド】同志社大学スポーツ健康科学部教員父母連絡会報 第23号 2025年11月発行

【編集・発行】同志社大学スポーツ健康科学部教員父母連絡会 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学スポーツ健康科学部事務室内

【デザイン】颯原広行（株式会社デザイン） 【制作・印刷】株式会社デザイン

Tel. 0774-65-6030

Fax. 0774-65-6029

e-mail: it-spojim@mail.doshisha.ac.jp